

PAT-NO: JP406156130A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06156130 A

TITLE: SEAT FOR AUTOMOBILE PROVIDED  
WITH SEAT FOR CHILDREN

PUBN-DATE: June 3, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

SUZUKI, MASAHIRO

KIMURA, SHIRO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SUZUKI MOTOR CORP

N/A

APPL-NO: JP04311902

APPL-DATE: November 20, 1992

INT-CL (IPC): B60N002/26, B60N002/30 , B60R022/10

US-CL-CURRENT: 297/238

ABSTRACT:

PURPOSE: To improve the comfortableness when  
sitting on a seat for children,

and to improve the appearance thereof.

CONSTITUTION: A seat 3 for children, which is turned around the lower end thereof and fallen forward, is built in a seat back 8 of a seat for automobile, and under the condition that this seat 3 for children is housed in the seat back 8, the back surface of the seat 3 for children forms a part of the seat back 8. Tip parts 4a, 5a of the seat 3 for children and a recessed part of the seat back 8 are extended to the upper end of the seat back 8. The tip parts 4a, 5a of the seat 3 for children are provided with the facing material 44, which is held between a head rest and the seat back 8 at the time of housing the seat 3 for children.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-156130

(43)公開日 平成6年(1994)6月3日

(51)Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 N 2/26				
2/30				
B 6 0 R 22/10		9253-3D		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 8 頁)

(21)出願番号 特願平4-311902

(22)出願日 平成4年(1992)11月20日

(71)出願人 000002082

スズキ株式会社

静岡県浜松市高塚町300番地

(72)発明者 鈴木 昌宏

静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式  
会社内

(72)発明者 木村 志朗

静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式  
会社内

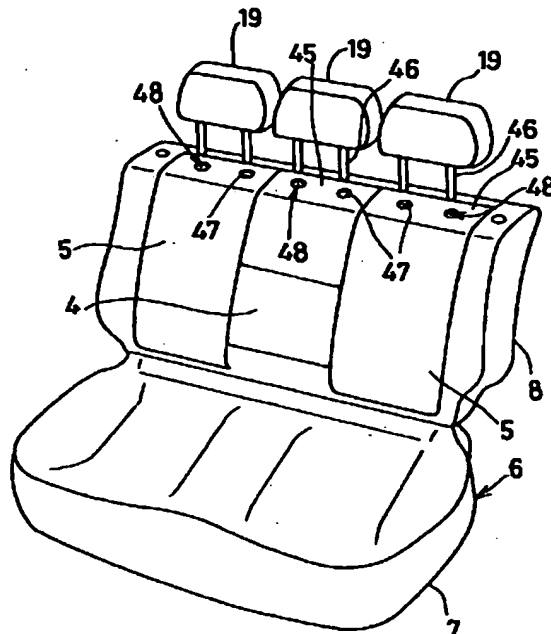
(74)代理人 弁理士 奥山 尚男 (外2名)

(54)【発明の名称】 子供用シート付自動車用シート

(57)【要約】

【目的】 子供用シートの座り心地の向上を図り、かつ  
外観の向上を図り得る子供用シート付自動車用シートを  
提供することである。

【構成】 自動車用シートのシートバック8に、下端部  
を中心に回動して前方に倒れる子供用シート3を内蔵す  
ると共に、この子供用シート3がシートバック8に格納  
状態では、子供用シート3の裏面がシートバック8の背  
もたれを構成した子供用シート付自動車用シートにおい  
て、上記子供用シート3の先端部4a、5aおよびシー  
トバック8の凹部9をシートバック8上端部まで延出  
し、かつ、上記子供用シート3の先端部4a、5aに、  
該子供用シート3の格納時に、上記ヘッドレスト9とシ  
ートバック8との間に保持される表皮材44を設けたこ  
とにある。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 自動車用シートのシートバックに、下端部を中心に回動して前方に倒れる子供用シートを内蔵すると共に、この子供用シートがシートバックに格納状態では、子供用シートの裏面がシートバックの背もたれを構成した子供用シート付自動車用シートにおいて、上記子供用シートの先端部およびシートバックの凹部をシートバック上端部まで延出し、かつ、上記子供用シートの先端部に、該子供用シートの格納時に、上記ヘッドレストとシートバックとの間に保持される表皮材を設けたことを特徴とする子供用シート付自動車用シート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、座り心地の向上および外観の向上を図り得る子供用シートを内蔵した子供用シート付自動車用リヤシートに関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来、自動車に幼児を乗せる際、大人用のシートベルトの着用が不可能であるため、子供用シートクッション、いわゆるチャイルドシートが使用されている。チャイルドシートは、自動車の助手席あるいは後部座席に据え付けて使用するため、大人が乗る際には邪魔になり、その都度、取り付けたり、取り外したりしなければならなかった。この為、チャイルドシートの必要性が認められているにもかかわらず、着用率は以外と低いものであった。

【0003】そこで、助手席シート等に、予め、チャイルドシートを組み込んだ型式のものが、新たに開発されている。図18に示したものは、助手席シート100に、チャイルドシート101を一体に組み込んだもので、シートクッション102とシートバック103から成る助手席シート100のシートバック103の一部を前方に倒れるようにして、これを幼児が坐るクッション104に利用したものである。このチャイルドシート101は、前倒しにしたクッション104の上に幼児を座らせ、このクッション104とシートバック103の間に内蔵した保護ベルト105を幼児に装着し、この保護ベルト105に設けられた胸当て106の固定金具107を、クッション104に装着したバックル108に装着して使用される。また、大人が乗る際には、クッション104を起こして、通常のシートバック103として利用することができる。

【0004】一方、リヤシートにチャイルドシートを内蔵したものも知られている。図19に示したものは、リヤシート109のシートバック110の前面中央部の一部を、破線のように前方に倒れるようにして、これを幼児が坐るクッション111に利用したものである。

## 【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記の従来技術によると、図18に示したものでは、クッショ

ン104が格納されるシートバック103の収納凹部112の上縁部113が前方に突出するため、幼児がクッション104の奥に腰を掛けたときに、幼児の頭部が上縁部113によって前方に出るため、深く腰を掛けると、座り心地が悪くなる虞がある(図20参照)。

【0006】また、図19に示したものでは、クッション111の上端部縫ぎ目114が表面に露出するため、外観的に悪くなる傾向があり、かつ、収納時のクッション111を保持するための面ファスナー(マジックファスナー)等の手段が必要であった(図21参照)。

【0007】本発明は上記課題を解決し、子供用シートの座り心地の向上を図り、かつ外観の向上を図り得る子供用シート付自動車用シートを提供することを目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記課題を解決するため、自動車用シートのシートバックに、下端部を中心に回動して前方に倒れる子供用シートを内蔵すると共に、この子供用シートがシートバックに格納状態では、子供用シートの裏面がシートバックの背もたれを構成した子供用シート付自動車用シートにおいて、上記子供用シートの先端部およびシートバックの凹部をシートバック上端部まで延出し、かつ、上記子供用シートの先端部に、該子供用シートの格納時に、上記ヘッドレストとシートバックとの間に保持される表皮材を設けたことにある。

## 【0009】

【作用】幼児を乗せて運転する際には、リヤシートのシートバックに設けられている幼児用クッションを倒して、幼児を座らせ、保護ベルトを幼児に装着する。こうして、幼児をリヤシートに坐らせることができるので、運転席から、インサイドミラーを通して容易にリヤシートの幼児を確認することができる。また、幼児より大きい学童を乗せるには、リヤシートのシートバックに設けられている学童用クッションを倒して、これに学童を座らせ、車体に装備されているシートベルトを装着する。次に、幼児用クッション等の子供用シートクッションをシートバックに格納するときは、子供用シートクッションの先端部をヘッドレストとシートバック上端部で挟み込んで保持する。

## 【0010】

【実施例】以下本発明の一実施例を図面を参照しながら詳細に説明する。

【0011】図1ないし図5において、1は自動車の車体で、この車体1の前部にはフロントシート2が設けられ、車体1の後部には、子供用シート3として、幼児用クッション4および学童用クッション5、5を内蔵したリヤシート6が設けられている。

【0012】このリヤシート6はシートクッション7とシートバック8で構成され、このシートバック8の前面

10

20

30

40

50

3

中央部に、主に乳児から4才未満を対象にした幼児用クッション4が前倒し可能に内蔵され、この幼児用クッション4を挟んで、その両側に4才以上の児童を対象にした学童用クッション5、5が前倒し可能に内蔵されている。

【0013】上記リヤシート6のシートバック8には、前面に凹部9が形成されており、この凹部9内に上記幼児用クッション4および学童用クッション5、5が並べて収納され、この幼児用クッション4および学童用クッション5、5の裏面が格納時に背もたれになるように構成されている。

【0014】幼児用クッション4の横幅W1は学童用クッション5、5の横幅W2より狭く、 $W1 < W2$ に形成され、かつ幼児用クッション4の長さL1は学童用クッション5、5の長さL2より短く、 $L1 < L2$ に形成されている。幼児用クッション4は、シートバック8と幼児用クッション4との間に、幼児用の保護ベルト10が内装されており、幼児用クッション4の使用時に、幼児に装着させるものである。

【0015】保護ベルト10は、幼児用クッション4に装着されたバックル11と、シートバック8に装着された腹部保護パッド12で構成されており、腹部保護パッド12はシートバック8の裏面側に配置されたリトラクタ（図示せず）から左右一対の引き出し穴13を通して引き出された2本のベルト14に装着されている。

【0016】一方、学童用クッション5、5は、それぞれ両側面にベルトガイド15が装着されており、使用時には、図5に示すように、3点式のシートベルト16のベルト17をベルトガイド15に掛けてからバックル18に留めることにより、学童の身体に合うようにしている。2点式のシートベルトの場合も同様である。上記シートバック8には幼児用クッション4および学童用クッション5、5に合わせてヘッドレスト19がそれぞれ設けられている。

【0017】次に幼児用クッション4および学童用クッション5、5の構造について図6ないし図10に従って説明する。幼児用クッション4は、図6ないし図8に示すように、補強プレート20、20を内蔵した二つのクッション本体21、22で構成されており、これら補強プレート20、20に設けられた左右各一対のステー23、24を互いに連結して構成されている。ステー23、24は相互間にそれぞれブッシュ25を介して、ネジ26、ワッシャー27、鈎付きナット28を介して締結されている。幼児用クッション4は、基端側のクッション本体22に設けられたステー29をシートバック8内の補強フレーム30に装着されたアームレストブラケット31に、図8に示すように、ネジ32、ワッシャー33、ブッシュ34、鈎付きナット35を介して回動可能に締結されている。

【0018】幼児用クッション4は、学童用クッション

4

5、5よりも座る位置が高くなるように回動位置を高く設定しており、この幼児用クッション4の基端側の空間部にシートバック8の下部36が配置されるように構成されている。このシートバック8の下部36は幼児用クッション4を前倒しにした際に、同一高さで奥行き方向に連続するように構成されている。

【0019】幼児用クッション4は、先端側のクッション本体21を下向きの傾斜面に形成し、かつクッション本体21、22相互間で折曲げ可能に形成され、幼児が脚を斜め下方向に伸ばせるようにしてある。クッション本体21、22は互いに重なるように折り曲げてアームレストとして使用することができる。

【0020】次に、学童用クッション5、5は図9および図10に示すように、クッション本体37内に補強フレーム38と、スプリング39を内装し、上記補強フレーム38にステー40が設けられている。この学童用クッション5、5はシートバック8に設けられたアームレストブラケット31と、ヒンジアーム41にステー40を介して支持されている。このステー40はアームレストブラケット31およびヒンジアーム41に、図8と同様に、ネジ32、ワッシャー33、ブッシュ34、鈎付きナット35を介して締結されている。

【0021】42は幼児用クッション4とシートバック8との間に設けられた保護用ネットであり、これは幼児用クッション4を水平に保つものである。

【0022】図11ないし図16はシートバック8に格納状態の幼児用クッション4および学童用クッション5、5を示したものである。幼児用クッション4および学童用クッション5、5はパッドを長くして先端部4a、5aをシートバック8の上端部まで延出し、かつ表皮材44の一部を更に延ばして保持部45を形成してある。この表皮材44の保持部45にヘッドレスト19のステー46を通す穴47を形成してある。ヘッドレスト19のステー46はシートバック8に設けられた挿入穴48に挿入されて取り付けられている。この挿入穴48は、シートバック8内の、補強パネル49および補強パイプ50に装着されたガイドブラケット51で構成されている。ガイドブラケット51の内部には突起部52が設けられており、ヘッドレスト19のステー46に設けられた凹部53に係合して、ヘッドレスト19の抜けを防止している。

【0023】なお、表皮材44の保持部45に形成する穴47に代えて、図17に示すように、切り欠き54を形成して、この切り欠き54をヘッドレスト19とシートバック8で固定しても良い。

【0024】55はサイドドア56の内面に設けられたウィンドレギュレータであり、57はインサイドハンドルである。

【0025】上記構成による子供用シート付自動車用シートの使用方法を説明する。大人がリヤシート6に坐る

5

場合は、幼児用クッション4および学童用クッション5、5をシートバック8に格納して使用する(図1参照)。幼児用クッション4および学童用クッション5、5は表皮材44の保持部45をヘッドレスト19とシートバック8との間で挟持する。こうして、幼児用クッション4および学童用クッション5、5は上端部の縫ぎ目がヘッドレスト19によって隠れるので、外觀の向上を図ることができる。

【0026】次に、幼児を乗せて走行する場合には、幼児用クッション4を前方に倒して、幼児用クッション4に幼児を坐らせ、幼児の身体に保護ベルト10を装着する(図4参照)。シートバック8の凹部9は、上端まで連続しているのので、幼児の頭部がシートバック8の上端部に当たることがない。こうして、幼児は腰を凹部9の深い位置まで入れることができるので、安定良く座ることができる。そして、保護者からインサイドミラーを通して幼児を見ることができるので、視線を大きく反らすことなく幼児の様子を観察することができる。幼児からウィンドレギュレータ55およびインサイドハンドル57が遠くなることから、幼児によるこれらのものに対する操作を防止することができる。

【0027】また、幼児よりも少し成長した学童を乗せて走行する場合には、学童用クッション5、5を前方に倒して、これに学童を坐らせる。学童用クッション5、5もまた、シートバック8の上端まで、延長してあるので、学童は凹部9の深い位置まで腰を入れて座ることができる。学童には、車体に装備されているシートベルト16を装着する。シートベルト16のベルト17は学童用クッション5、5に装着されているベルトガイド15に引掛けてからバックル18に留める(図5参照)。こうして、学童はシートクッション7に坐るよりも視界が開け、かつシートベルト16のベルト17をベルトガイド15に掛けて装着するので、身体の適正位置にシートベルト16を装着することができる。

【0028】次に幼児と一人または二人の学童を乗せて走行する場合には、幼児用クッション4と学童用クッション5、5の両方を前方に倒して使用する(図2参照)。こうして、幼児と一人または二人の学童をリヤシート6に乗せて走行することができる。

【0029】また、幼児と共に大人がリヤシート6に坐る場合には、幼児用クッション4を倒して幼児を坐らせ、大人はその横に坐ることができる(図4参照)。さらに、幼児と学童と共に大人が坐る場合には幼児用クッション4と学童用クッション5を一つ倒して、三人で座することもできる。なお、上記実施例は、リヤシートについて説明したが、フロントシートに適用することができるのは言うまでもない。

【0030】

【発明の効果】以上述べたように、本発明による子供用シート付自動車用シートによれば、自動車用シートのシ

6

ートバックに、下端部を中心に回転して前方に倒れる子供用シートを内蔵すると共に、この子供用シートがシートバックに格納状態では、子供用シートの裏面がシートバックの背もたれを構成した子供用シート付自動車用シートにおいて、上記子供用シートの先端部およびシートバックの凹部をシートバック上端部まで延出し、かつ、上記子供用シートの先端部に、該子供用シートの格納時に、上記ヘッドレストとシートバックとの間に保持される表皮材を設けたので、子供の頭部がシートバックの縁部に当たることがない。また、子供用シートの上端部が外部から見えないので外觀の向上を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の子供用シート付自動車用リヤシートを適用した一実施例を示す自動車の室内斜視図である。

【図2】本発明の子供用シート付自動車用リヤシートの使用状態を示す斜視図である。

【図3】幼児用クッションおよび学童用クッションを収納した状態の正面図である。

【図4】幼児用クッションの使用状態を示す斜視図である。

【図5】一つの学童用クッション使用状態を示す斜視図である。

【図6】幼児用クッションの基端部の取付構造を示す斜視図である。

【図7】幼児用クッションの中間部の取付構造を示す斜視図である。

【図8】幼児用クッションの基端部の取付構造を示す断面図である。

【図9】学童用クッションの取付構造を示す斜視図である。

【図10】学童用クッションの平面図である。

【図11】本発明の子供用シート付自動車用シートの固定方法を示す斜視図である。

【図12】図1のA-A線断面図である。

【図13】幼児用クッションを外して示す斜視図である。

【図14】図1のB-B線断面図である。

【図15】学童用クッションを外して示す斜視図である。

【図16】幼児用クッションまたは学童用クッションのヘッドレスト部分の構造を示す断面図である。

【図17】本発明の子供用シート付自動車用シートの固定方法の他の実施例を示す斜視図である。

【図18】従来の子供用シート付自動車用リヤシートを示す斜視図である。

【図19】従来の子供用シート付自動車用リヤシートを示す斜視図である。

【図20】図18の子供用シート付自動車用リヤシートの使用状態を示す概念図である。

【図21】図19の子供用シート付自動車用リヤシート

7

の使用状態を示す概念図である。

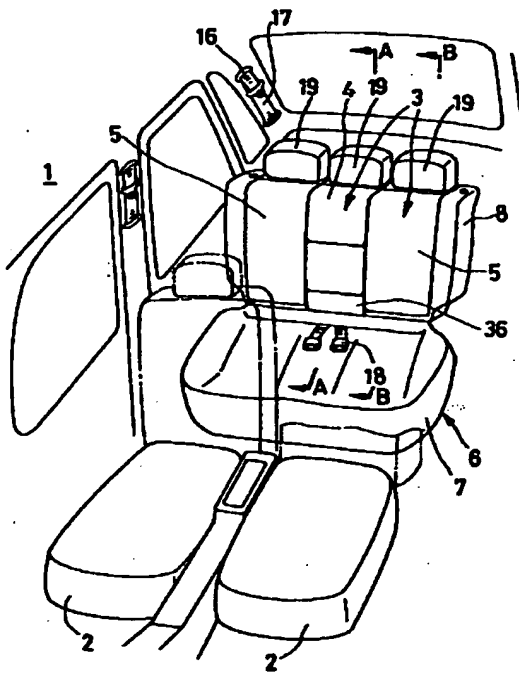
## 【符号の説明】

- 1 車体
- 2 フロントシート
- 3 子供用シート
- 4 幼児用クッション
- 5 学童用クッション
- 7 シートクッション
- 8 シートバック
- 9 凹部
- 10 保護ベルト
- 11 バックル
- 12 腹部保護パッド

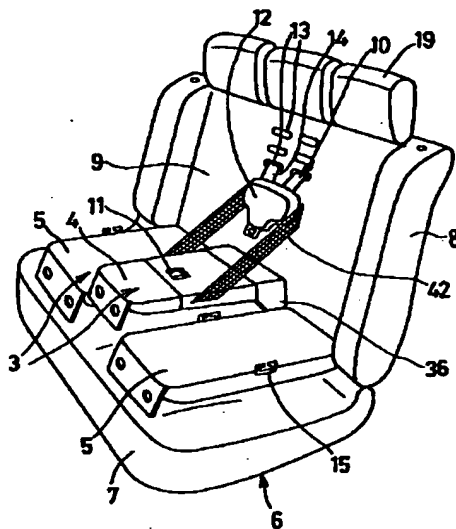
8

- 13 ベルト通し穴
- 14 ベルト
- 15 ベルトガイド
- 16 シートベルト
- 17 ベルト
- 19 ヘッドレスト
- 44 表皮材
- 45 保持部
- 46 ステア
- 10 47 穴
- 48 挿入穴
- 4a 先端部
- 5a 先端部

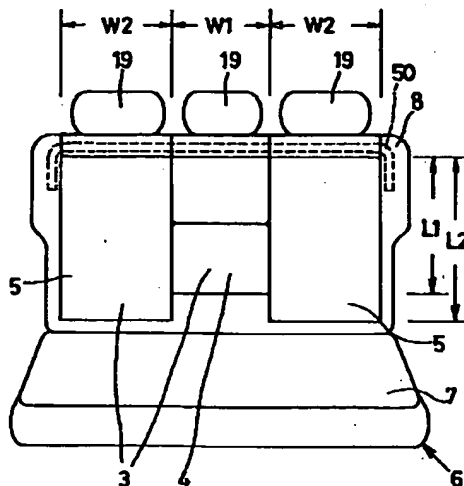
【図1】



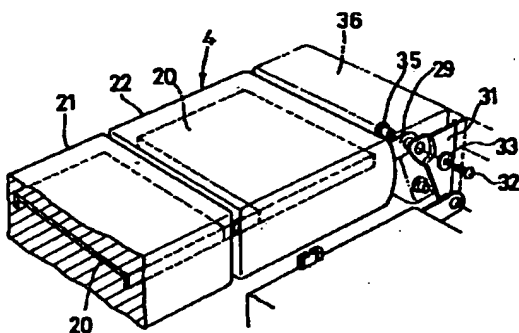
【図2】



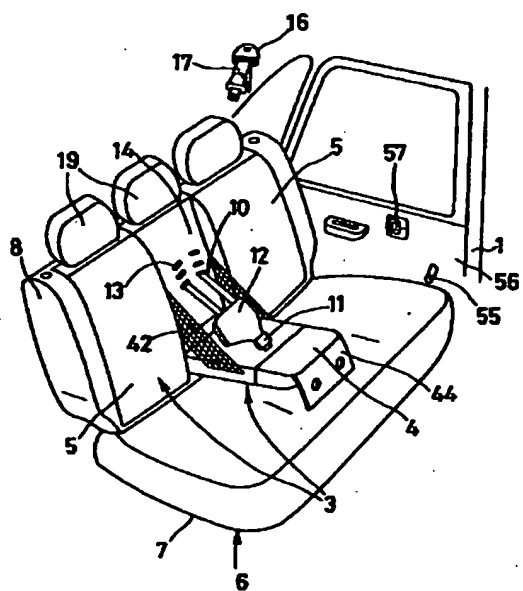
【図3】



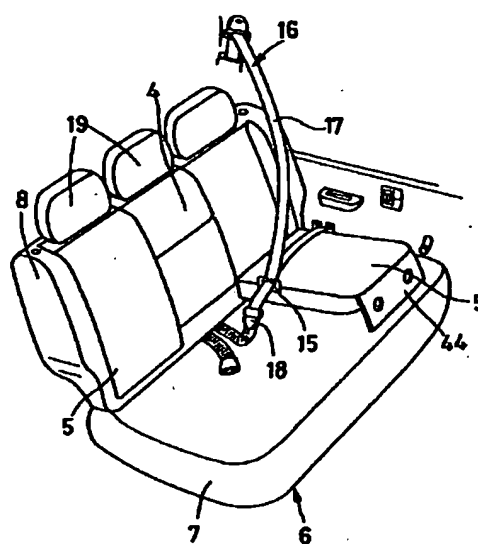
【図6】



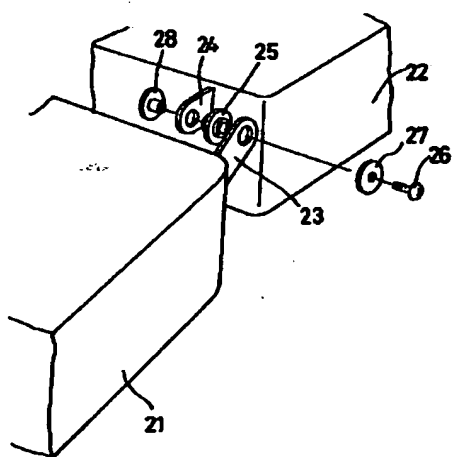
【図4】



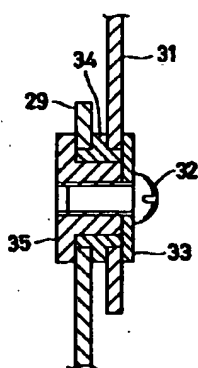
【図5】



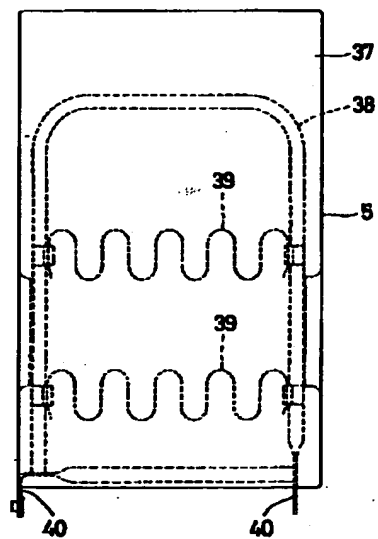
【図7】



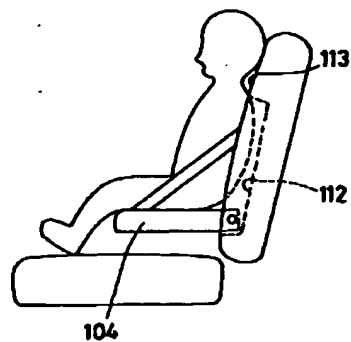
【図8】



【図10】

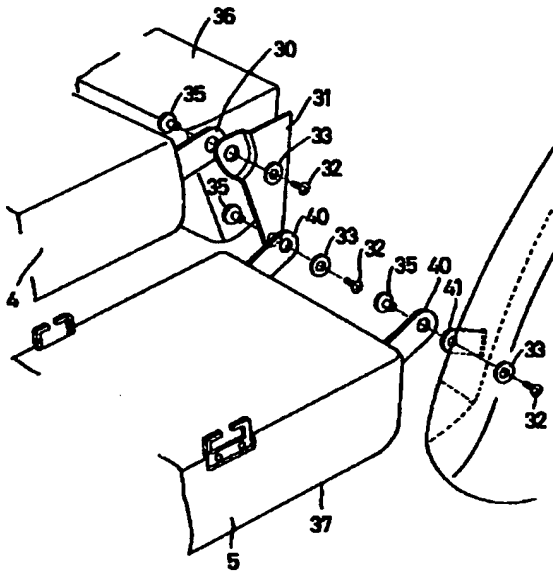


【図20】

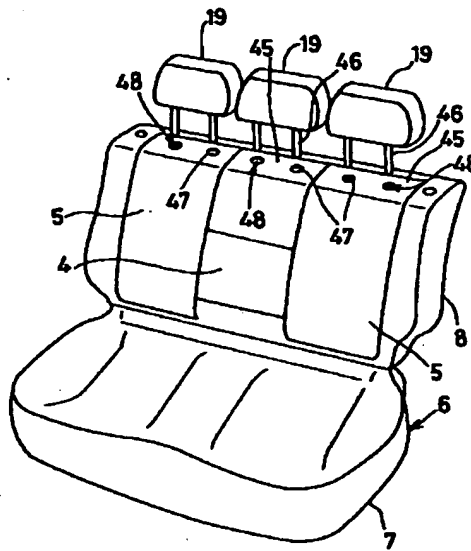




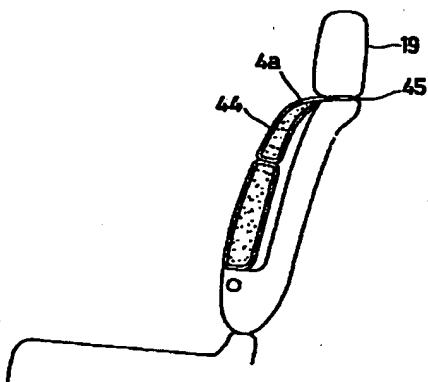
【図9】



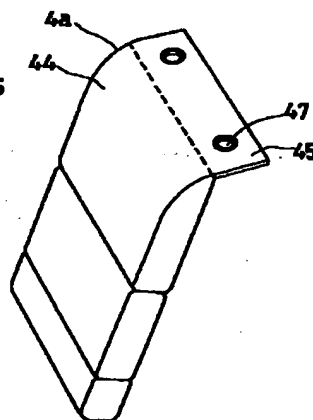
【図11】



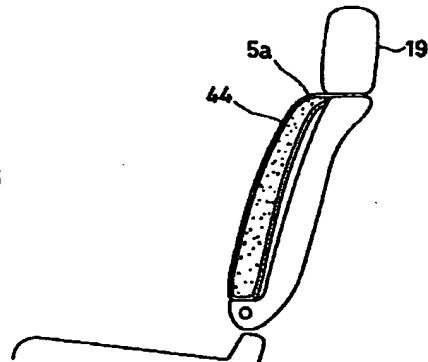
【図12】



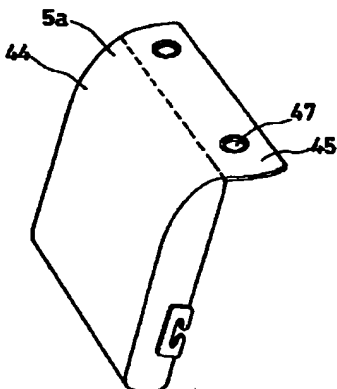
【図13】



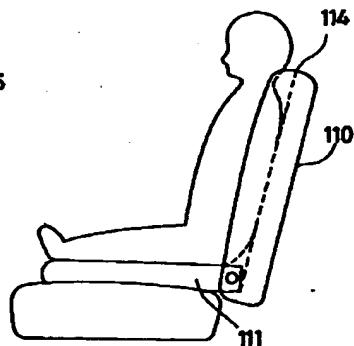
【図14】



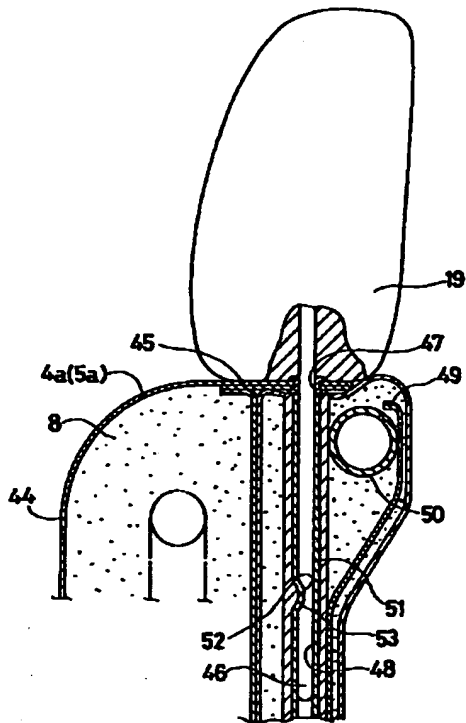
【図15】



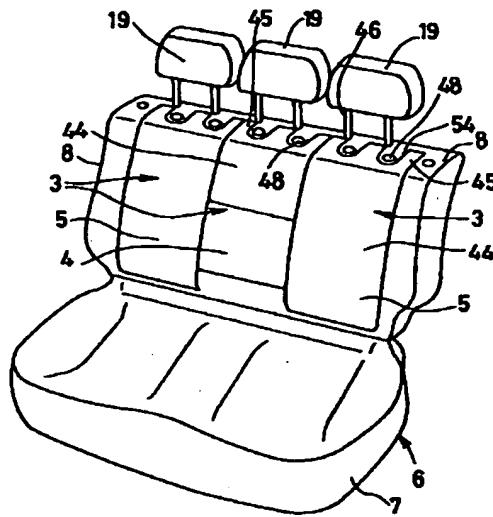
【図21】



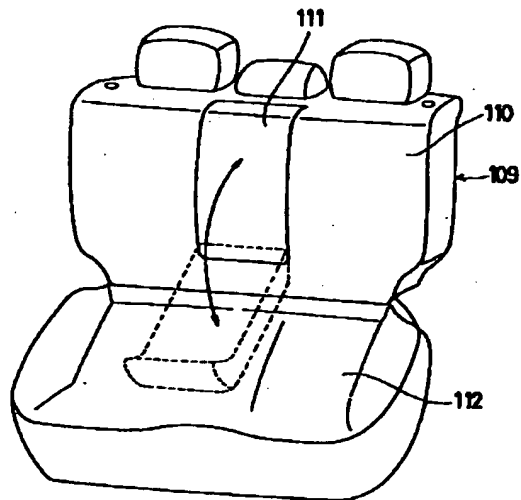
【図16】



【図17】



【図19】



【図18】

